

校番	32	ホームルーム活動	生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
----	----	----------	-------	------	---	------

平成28年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	沼南高等学校	校長	沖井 信	生徒指導主事	櫻田隆紀
-----	--------	----	------	--------	------

取組事例名 『平成28年度 沼南祭・体育祭』

取組のねらい『キーワード 自己肯定感の醸成・挨拶の徹底』

「沼南生」としての自覚を持ち、集団の中でのルールを守り、規律ある集団行動や他者を尊重する態度を育てる。さわやかに挨拶できる沼南高校生となる。

取組の具体的内容『キーワード 自己存在感を確認する』

6月の沼南祭（文化祭）では、家政科は、3年間の集大成をファッションショーでアピールし盛り上げる。そのファッションショーに家政科の下級生が憧れる。そうして、目標とプライドが引き継がれていく。園芸デザイン科は、3年生の4つの課題研究班が、生徒それぞれの役割をステージで堂々と発表した。普通科は、1年生が英語劇「桃太郎」、2年生が英語劇「白雪姫」、3年生が創作演劇「シンデレラ」を熱演し、拍手喝采を浴びた。小・中学校の時に不登校だったり経験させてもらえなかった事にチャレンジさせ、鍛え、達成感を味あわせ、力と自信をつけさせる指導を行った。



取組の課題・創意工夫『キーワード 声を出して自己アピールする、他者を承認する』

最初に「集合・整列」「行進」「挨拶」で声を出す。
各集会や授業の始まり終わり、心を一つにした挨拶を行っていく。

取組の成果（効果）『キーワード 自己有用感、自己の所属の確認と他者の承認』

体育祭の入場行進を、今年は採点種目にした。各学年で行進の練習を行った。本番では、行進が始まる前に、3年生が全員で円陣を組んで「団結の雄叫び」をあげた。そして見事に行進も種目も優勝した。途中、地震で一時中断したが、1年生も2年生も、自分の学年の為に全力を出している姿と顔が輝いていた。ソーラン節では、有志が集まり団長の生徒会長をたて、練習を重ねるごとに規律ある集団になっていった。



今後の展開『キーワード 学習規律（授業の号令）の定着』

授業での号令を各学年で取り組み、全学年で徹底していく。

授業はもちろん、教育活動のあらゆる場面でしっかりした号令・挨拶をさらに定着させていく。

他校へのアドバイス『キーワード 成功体験の積み重ね、自己有用感、自己達成感』

すべての生徒に、自らが表現する場を意図的につくっていくことで成功体験を積み重ね、自己肯定感と自己有用感を高めていく。これは＝為すことによって学ぶ＝「学びの変革」の取組が目指すところと同じである。

ただ、学校組織としてこれらの取組を進めて効果を上げていくためには、教職員が一つのチームとなる必要がある。そのためには、タイムリーな研修会を継続的に行い教職員のスキルアップが重要である。